

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 25036

建築物名称	日本食塩製造(株)製品倉庫新築工事
建築主	日本食塩製造株式会社 代表取締役社長 福家 顕一
建築物の所在地	川崎市川崎区夜光3-3-6、7、12、13、17、18
設計者氏名、建築士事務所名	佐藤 和哉 株式会社渡辺建築事務所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,367.79㎡
用途	倉庫業を営まない倉庫
構造	鉄骨造
階数	地上1階
工事完了予定年月	令和9年1月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

1-1 建物概要

建物名称	日本食塩製造(株)製品倉庫新築工事
建設地	川崎市川崎区夜光3-3-6、7、12、13、17、18
用途地域	市街化区域、工業専用地域
地域区分	6地域
建物用途	工場
竣工年	2027年1月 予定
敷地面積	5,805 m ²
建築面積	2,281 m ²
延床面積	2,368 m ²

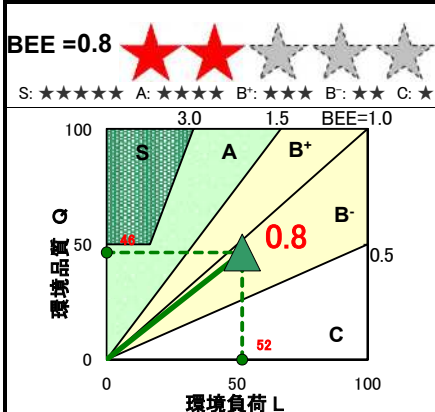
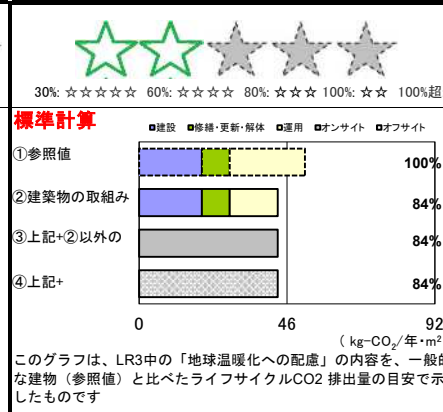
階数	地上1F
構造	S造
平均居住人員	0 人
年間使用時間	0 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2025年10月3日
作成者	㈱渡辺建築事務所 安斎
確認日	2025年10月17日
確認者	㈱渡辺建築事務所 安斎

1-2 外観

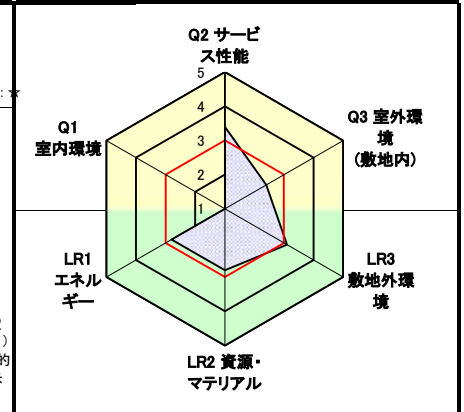
25036

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

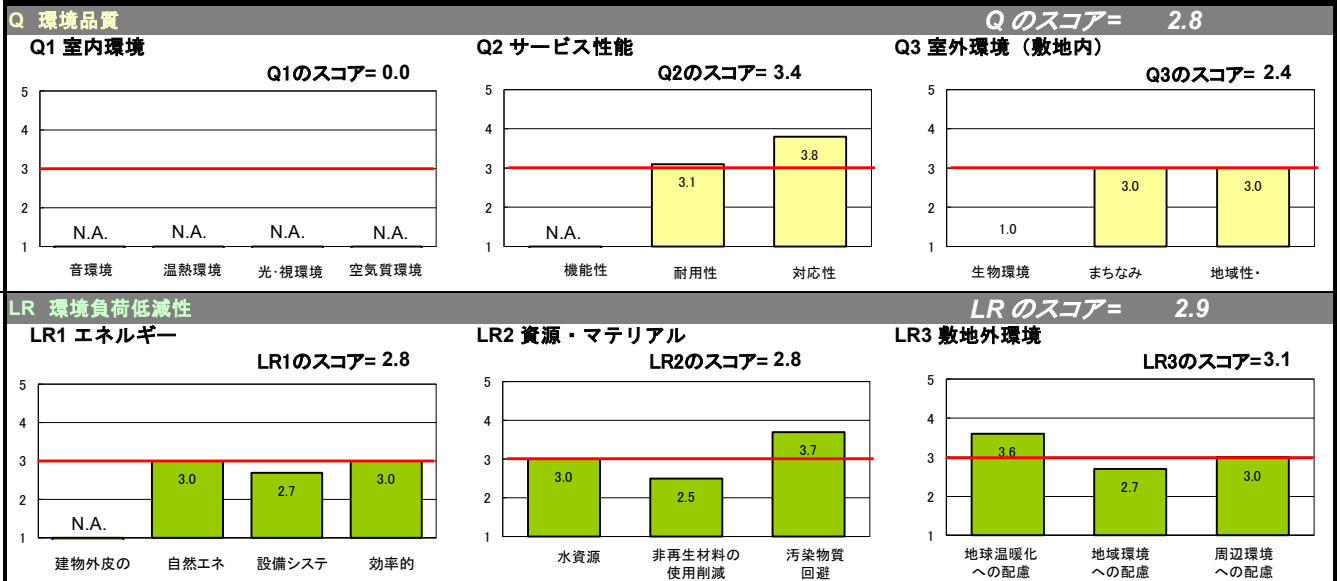
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		2.0/4.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.6
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能		0.0/0.0	-
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備			
3.2 3.2.1 屋光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		2.8/5.0	2.8
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.7/4.7	2.8
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避	ノンフロン断熱材を使用		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	ステンレスダクト、給水管・汚水・雑排水:VD,VP,VP	0.5/0.8	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.1/4.0	2.6
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.2
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.5
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		2.8/5.0	2.8
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 2.7

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.2	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.8/1.3	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		2.8/5.0	2.8
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目		重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
		G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質											2.8
Q1 室内環境											
1 音環境							-	-		-	-
1.1 室内騒音レベル						-	-			-	
1.2 遮音						-	-			-	
1 開口部遮音性能						-	-			-	
2 界壁遮音性能						-	-			-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-			-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-			-	
1.3 吸音						-	-			-	
2 温熱環境							-	-		-	-
2.1 室温制御						-	-			-	
1 室温			W			-	-			-	
2 外皮性能						-	-			-	
3 ゾーン別制御性						-	-			-	
2.2 湿度制御						-	-			-	
2.3 空調方式						-	-			-	
3 光・視環境							-	-		-	-
3.1 昼光利用						-	-			-	
1 昼光率						-	-			-	
2 方位別開口						-	-			-	
3 昼光利用設備			W			-	-			-	
3.2 グレア対策						-	-			-	
1 昼光制御			W			-	-			-	
3.3 照度						-	-			-	
3.4 照明制御						-	-			-	
4 空気質環境							-	-		-	-
4.1 発生源対策						-	-			-	
1 化学汚染物質						-	-			-	
4.2 換気						-	-			-	
1 換気量						-	-			-	
2 自然換気性能						-	-			-	
3 取り入れ外気への配慮						-	-			-	
4.3 運用管理						-	-			-	
1 CO ₂ の監視						-	-			-	
2 喫煙の制御						-	-			-	
Q2 サービス性能							-	0.43		-	3.4
1 機能性							-	-		-	-
1.1 機能性・使いやすさ						-	-			-	
1 広さ・収納性						-	-			-	
2 高度情報通信設備対応						-	-			-	
3 バリアフリー計画						-	-			-	
1.2 心理性・快適性						-	-			-	
1 広さ感・景観						-	-			-	
2 リフレッシュスペース						-	-			-	
3 内装計画						-	-			-	
1.3 維持管理						-	-			-	
1 維持管理に配慮した設計						-	-			-	
2 維持管理用機能の確保						-	-			-	
2 耐用性・信頼性							3.1	0.50		-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						-	3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						-	3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						-	3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						-	3.5	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数				R		-	3.0	0.22		-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔				R		-	3.0	0.22		-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				R		-	-	-		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				R		ステンレスダクト	4.0	0.11		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				R		給水管・汚水・雑排水: VD、VP、VP	5.0	0.22		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				R		-	3.0	0.22		-	
2.4 信頼性							2.8	0.20		-	
1 空調・換気設備						-	3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						-	2.0	0.20		-	
3 電気設備						-	3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						設備耐震クラスA	4.0	0.20		-	
5 通信・情報設備						-	2.0	0.20		-	

3	対応性・更新性										3.8	0.50	-	-	3.8
	3.1 空間のゆとり										4.6	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり								階高:3.9m以上		5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ								更新に配慮した計画とする		4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり								-		3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性								-		3.8	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性								-		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								配管は露出のため修繕・更新は容易にできる		5.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								ケーブルラック上		5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								ケーブルラック上		5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								-		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								-		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)											-	0.57	-	-	2.4
1	生物環境の保全と創出				G	W			H	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮				G					-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮									-	3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上									-	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W			H	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性												-	-	-	2.9
LR1 エネルギー											-	0.40	-	-	2.8
1	建物外皮の熱負荷抑制					W			H	-	-	-	-	-	-
2	自然エネルギー利用					W			H	-	3.0	0.13	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化					W			H	-	2.7	0.63	-	-	2.7
	集合住宅以外の評価										2.7	1.00	-	-	
	集合住宅の評価										-	-	-	-	
4	効率的運用										3.0	0.25	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価										3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング					W			H	-	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制					W			H	-	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価										-	-	-	-	
	4.1 モニタリング					W			H	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制					W			H	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル											-	0.30	-	-	2.8
1	水資源保護					W			R		3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水										-	-	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用										3.0	1.00	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無										3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無										3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減										2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1 材料使用量の削減					W			R	-	3.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用					W			R	-	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W			R	-	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W			R	-	1.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材					W			R	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					W			R	-	3.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避										3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用										3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避										4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤					W					-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)					W					5.0	0.50	-	-	
	3 冷媒					W					3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境											-	0.30	-	-	3.1
1	地球温暖化への配慮					W					3.6	0.33	-	-	3.6
2	地域環境への配慮										2.7	0.33	-	-	2.7
	2.1 大気汚染防止										3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W			H	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制										2.0	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減								R	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制								R	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制								R	-	1.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制								R	-	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮										3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止										3.0	0.40	-	-	
	1 騒音										3.0	1.00	-	-	
	2 振動										-	-	-	-	
	3 悪臭										-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制										3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制										3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制										-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制										3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制										3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策										3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策										3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
1.3.1 維持管理に配慮した設計	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.4.1 空調・換気設備	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.4.5 通信・情報設備	1.0	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	3.0	－	－	－	1.0	－	－	－	1.0	－	1.0	－	－	－	－
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	－	2.0	1.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	－	－	－	－	－	－	1.0	1.0	－	－	－	－	－	－
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0	－	－	1.0	1.0	1.0	－	－	－	2.0	2.0	－	－	－	－
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.1 材料使用量の削減	2.0	－	－	2.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	10.0	－	1.0	－	3.0	3.0	1.0	－	－	－	2.0	－	－	－	－
2.3.3 交通負荷抑制	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
3.2.2 砂塵の抑制	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	－	－	2.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムS(－ 窓の日射熱取得率(η)－		U値(W/m2K) 窓システム－		屋根－		外壁－		床－	
住戸部分システムU値－		外皮UA値－		ηAC－		ηAH－			
星光率 0.0%									
自然換気有効開口比 0.0%									

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡/人	病床	.0㎡/床	シングル	.0㎡	ツイン	.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡						
天井高	0 m						
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%				
想定耐用年数	25 年						
想定必要間隔	20 年						
想定必要間隔	仕上無し 年						
想定必要間隔	0 年						
階高	10 m						
壁長さ比率	11.3%						
床荷重	－ N/m2						

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	26%	建物緑化指数	0%				
空地率	54%	水平投影面積率	19%	地表面対策面積率	17%	舗装面積率	40%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	対象外	断熱等性能等級	対象外	相当			
自然エネルギー直接利	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0	採光を満たす住戸数	0	採光を満たす住戸数	0
		通風を満たす教室数	0	通風を満たす住戸数	0	通風を満たす住戸数	0
		太陽光	#REF!	太陽熱等	#REF!	蓄電池	#REF!
BEI/BEI _m	再エネ 0.64	無	0.64	オフサイト再エネ有	0.30	－	－
一次エネルギー削減	再エネ	無	－				

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%						
特定調達品E	－	エコマーク商品	－	自治体指定の特定品目等	－		
使用比率	0.0%						
オゾン層破壊係数(C	地球温暖化係数(GWP)						
オゾン層破壊係数(C	0	地球温暖化係数(GWP)	1				
オゾン層破壊係数(C	0	地球温暖化係数(GWP)	675				

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	6%	棟間隔指標Rw	1.48				
地表面対策面積率	28.0%	屋根面対策面積率	#DIV/0!	外壁面対策面積率	0.0%		
見付面積S _b	460㎡	1越風向と直交する最大敷地幅W _s	86.78 m	基準高さH _b	76.73 m		
緑地	411㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡
		再帰性反射対策面	㎡				